

令和7年度 授業改善推進プラン<英語>

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に発言したり、英会話の活動に取り組んだりしている。一方で、やり取りの場面では単語のみの答えが目立ち、主語と動詞を含む英語の文で答えることが十分ではない。 ○身に付けた知識をどの場面で活用したらよいか判断したり、技能につなげたりすることを意識付けなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題や定期考査の出題の仕方を工夫して、覚えたことを活用する機会を増やす。 ○基本的な単語・文法のテストを定期的に行い定着を図る。 ○生徒は日本語を英語に直訳しようとする傾向がある。既習事項を活用して表現する思考法を身に付けさせ、習慣化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に出題予告したものは、よく取り組み、よく覚えていた。 ○基本的な語彙の定着を図れた。 ○言語活動を通して、生徒は既習事項を活用して、表現する方法を身につけた。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として、英語に対する苦手意識が高く、学習態度が受動的な生徒が多い。 ○文型（SVなど）や基礎的な文法ルールの定着度が低い。特に、三単現、複数形、一般動詞とbe動詞の区別、肯定文・疑問文・否定文の構造に混乱が見られる。 ○話す活動は楽しみながら積極的に行う生徒が多い。一方で発話内容は、2～3語文であったり、主語が一人称ばかりであったり、学年相応の文法が習得できていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1時間の授業に4技能をバランスよく取り入れることで、授業にリズムを付ける。 ○生徒の学習態度が主体的になるように、単元のめあてが興味関心を引くものになるよう研究する。 ○「本時のめあて」を明確にすることで、授業に見通しを持たせるとともに、学習内容を平易にする。 ○「話す」において、既習内容を活用できるよう、トピックやデモを研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4技能のバランスよく、取り入れることができた。 ○興味関心を引くものを中心に授業を組み立てることができた。 ○「話すこと」を中心に既習内容を活用して、発表を行うことができた。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は、文法事項においてbe動詞や代名詞など、基礎基本を理解できている。しかし、大半の生徒は、複数の文法項目を使用して英文を作成することに課題がある。 ○文法事項の用法などを積極的にとる姿は見受けられるが、作文や会話の場面になると積極的に取り組めない生徒がいる。 ○長文を読むことに対する苦手意識が強く、要約や課題に取り組めない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の文法項目が用いられた英文から、部分的に分けながらそれぞれの意味や用法を丁寧に解説する。次に、自分の考えに基づいて、複数の英文を作成したのち、それらの文を1文にまとめる練習を行う。 ○ブレインストーミングやマッピングなど、段階的に作文や会話につなげられるようにワークシートを作成し、作文や会話に対する苦手意識を軽減する。 ○机間指導を充実させ、その生徒に個別最適な指導・助言をするよう心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の表現活動を行う前段階として、自分の考えをまとめる活動を取り入れた。そのうえで、自分の考えに基づき英文を生成する活動を生徒に行わせることができた。 ○机間指導を充実させ、個別最適な指導をすることができた。